

## 視 察 報 告 書

以下のとおり視察報告いたします。

・会派名 都伸クラブ 榎木 智幸・黒木 優一・中村 千佐江  
公 明 大浦 さとる・佐藤 紀子・音堅 良一

・視察先

1. 令和元年 10 月 30 日（水）～ 31 日（木）  
全国市議会議長会研究フォーラム  
「議会活性化のための 船中八策」  
高知県 高知市 高知ちばさんセンター
2. 令和元年 11 月 1 日（金） 9：30 ～11：00  
大阪府 池田市「教育のまち池田」の取り組みについて



・高知県 高知市 「議会活性化のための 船中八策」

・1日目 10月30日(水)

I. 研修内容

・基調講演 中島 岳志 氏

(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

1 現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性

配分をめぐる軸 Y軸

セーフティーネット強化(リスクの社会化) vs 自己責任(リスクの個人化)

価値をめぐる軸 X軸

リベラル vs パターナル

2 パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

・高部 正雄 氏 (市町村職員中央研修所学長)

・横田 響子 氏 (㈱コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授)

・古川 康造 氏 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)

・田鍋 剛 氏 (高知市議会議長)

○市議会の現状認識

・議会基本条例制定60.8% 議会報告会の開催53.7%の状況

・指摘される問題点

① 投票率の低下 議会への無関心 ②無投票当選の増加 議員のなり手不足

③ 議員構成の偏り 女性、若者の参加 ④政務活動費の不正使用 議員の不祥事

○今後の自治体会議のあり方

・議会運営 休日や夜間会議 ・議員の日常活動 ・選挙制度の見直し

・兼職や兼業規制の弾力化 ・労働法制の見直し ・議員の校正年金への加入

・2日目 10月31日(木)

3 「議会活性化のための船中八策」 課題討議

事例報告

・滝沢 一成 氏 (上越市議会議員)

市議を目指しやすい環境整備への提言

・久坂くにえ 氏 (鎌倉市議会議長)

女性議員の現状の視点

・小林 雄二 氏 (周南市議会議長)

周南市議会事例報告

## Ⅱ. 視察の感想及び市政や議会への反映等

### ・1 日目

人口減を前提とした中長期的な視点で街の目指す方向を論議、若手や女性の参加についてなど、土日や夜間も活用すべきだと話があった。また、まちづくり戦略として土地の所有と利用を分離した市中心部の土地の有効活用で、地権者は、個々の権利を主張するより全体の利益をシェアした方が得ということに気づいた。建物を立体的にし3階建てで一階は商業施設、2階はコミュニティ施設等とし、3階を分譲住宅として再開発した。商店街に導入された様々な都市機能を区ごとに分け実施され、人々の交流ができあがり、後に続く再開発にも受け継がれていった。との事、都城市でも中心市街地の活性化に取り組んでいるが、新しい商店街のかたちを目指し、地権者との協議や市民との連携また、官民連携を図り、ステージ作りなのではないか。難しい問題など山積ではあるが、個々の対応ではなく一体化した区割りなども検討し活性化や新しい商店街になるのではないだろうか。

### ・2 日目

「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し、その改革案を策定。まずは、やる気にさせる心理的要因、議会の存在価値、やりがいやおもしろさではないか。そして、物理的要因として選挙費用への不安、報酬や身分保障への不安、また、環境的要因として地域の理解、家族の理解、女性特有の壁などがあげられる。それを踏まえ1年かけて市民との意見交換会の実施など様々な取り組みや検討を行った。結果、みえる議会・魅せる議会は、住民協働力、行政との対峙力、立法力、情報収集発信力の揃った議会。議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力との事。都城議会も議会報や報告会などの取り組みしているが、若い人や女性を対象とした検討していく時ではないかと思う。

「女性議員の現状の視点」として、家庭生活との円滑かつ継続的な両立また、環境整備に向けて、出産に伴う議会の欠席に関する規定整備、子育てや親の看護休暇に関する規定整備、配偶者出産休暇の取得などの整備が必要になる。現状は制度の整備が出来ていない議会が多い。女性が議員として安心して活動できる規定整備を都城議会でも必要ではないかと考える。

「周南市議会事例報告」では、合併後、議会解散請求が出され臨時議会で可決され、出直し選挙が実施された。この経験を教訓とし、議会改革に積極的に取り組んでいる。「市民に開かれた市議会」を目標として、議会改革特別委員会を設置し、1年間に15回の委員会を開催し、10項目のテーマについて協議検討し最終的に大きく4の枠での30項目を決めた。また、行政監視機能の充実についても取り決めた。都城市議会においても、議会改革は必要なことであり、様々な諸問題について協議検討していくことが大事だと思われる。



・大阪府 池田市

「教育のまち池田」の取り組みについて

池田市教育委員会 指導主事 前川 亮太 氏

## 1. 視察の感想

小中一貫教育の研究が平成 20 年度からスタート。教育特区の取組みの中で、中学校の英語の先生が 6 年生に英語を教えに行っていた。(いきいきスクール)入学前の小学生を知ること、小学校の先生と教育の話をすることが大変意義深いと聞いていた。そこで平成 23 年度に全ての中学校区で、小中一貫教育の研究を 3 年間実施、「学びつけ とともに生きる 子どもを育むために」いけだは「教育日本一」をめざし平成 26 年度から本格実施。各学園の小・義務教育学校においては連合競技会や音楽会を毎年開催され、中・義務教育学校においては、部活動での交流が中心とのこと。学園内の連携・交流は小中一貫教育推進委員が中心となり児童生徒の交流や教職員の交流、定期的な合同会議や研修など多岐にわたって取組みを進めている。また、各学園において、地域との連携はおおむね良好のようだ。職場体験で地域での受入れ、地域とともにイベントの開催や授業での地域の方々の参加などどの学園においても、地域との連携は欠かせないものとなっているようだ。英語力、学習環境整備、ICT教育支援、家庭学習支援と子育て支援、幼児教育の充実、外部人材活用(専門家やプロ)指導者派遣や部活動で活用され、子どもを中心とした内容となっている。あくまで、手段や方法であって目的ではないと伺った。

## 2. 視察の感想及び市政への反映等

都城市においても、小中一貫校はあるが内容は全く違うタイプで、児童生徒が少ない為に、小学校と中学校を統合した物であり池田市の取り組みは、もっと進んだものであり、就学前から義務教育の 9 年間を見通した教育として、小中一貫教育への取り組みをされ、長い期間をかけ研究してこれ実現されたものである。まずは、中学校の先生が小学校の先生との交流を図ることや、どんな子供が中学校へ入学してくるのか判らない状況、ある程度は把握されていることだと思われるが、顔を見るまで、どんな子供なのか判らない状態なのではないか。そこを解消する方法として、小中一貫校にすることで、問題は解決する。保護者も小中一貫の教育内容に感心を持ち、選択の一つとされているようだ。池田市には 5 つの学園で実施されており、地域外からも入学してきている。その為、学園にはスクールバスを 4 台持って送迎されてとのこと。小学生と中学生の交流も盛んで、楽しく取り組んでいるとのこと。都城市で実施するには、時間をかけて検討し、実施するには課題も多いと思われるが、未来を託す子ども達の新しい形の教育としてとらえ研究していくことも必要ではないか。



## 会派「都伸クラブ」「公明」行政視察報告書

公 明 佐藤 紀子

### ○ 全国市議会議長会研究フォーラム（高知県高知市）

R1 年 10 月 30 日（水）、31 日（木）

#### 1 視察の感想

高知市において、10 月 30 日、31 日の 2 日間、第 14 回全国市議会議長会研究フォーラムが開催された。このフォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、議会の役割のさらなる充実を目指し、共通する課題や今後の議会の在り方について、意見交換を行なうとともに、議員同士の位相に連携を深めることを目的として開催された。

高知市出身の坂本龍馬の船中八策にならい、「議会活性化の船中八策」をテーマとし、現場の課題やその対応策について広く討議された。

下記のプログラムに沿って、進行された。

#### 第 1 部 基調講演「現代政治のマトリクス」ーリベラル保守という可能性

中島岳志（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

#### 第 2 部 パネルディスカッション

#### 第 3 部 意見交換会

#### 第 4 部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

全国の各選挙における低投票率や議員の不祥事など、議会への不信感は、根強い。このような状況の中、活力があり、質の高い議会を構築していくため次のような諸問題について討議がなされた。

- 行政監視機能をどうやって高め、成果をあげていくか。
- 人口減少、外国人の増加、災害対応等、地域の将来を見据えた政策論議を進めるために、必要な視点とは何か。
- 候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられのか。
- 規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」に同対処するか。
- 住民の関心を高めるには、何をすべきか。

#### 2 視察の成果及び市政への反映

朝日新聞論説委員の坪井ゆずる氏が進行役となり、2 日間にわたり、パネルディスカッションや「議会活性化のための船中八策」の課題討議が行なわれ、熱い討議が展開された。

改めて地方政治における議員の役割や存在の重要性を確認することができた。また、地方議会における「議員のなり手不足」や「女性議員が 0 の議会」「議会と住民との接点の不足」等の課題についても様々な角度から討議され、参考になる取り組みや提案もあった。

特に、女性議員の現状の視点からの報告があり、大変興味深く拝聴した。「女性活躍推進法」や「政治分野における男女共同参画法」の施行に伴う議会の環境整備について、改善の必要性を実感した。



○ 「教育のまち池田」の取り組みについて

- ・ 小中一貫教育について
- ・ 教育コミュニティづくりの取り組みについて

(大阪府池田市) 令和元年 11月1日(金)

1 視察の感想

池田市では、平成28年度から「教育日本一」という目標を掲げ、多様な教育活動を通じて、これからの厳しい時代を生き抜く力を持った子どもたちを育むことを目指している。

今の社会において、少子高齢化や子どもの貧困、家族形態の変容、地域社会のつながりの希薄化等、様々な課題が表出しており、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している。このような社会状況に、子どもたちが対処することを余儀なくされるため、一人ひとりの生き抜く力がますます必要になってくる。そこで、就学前から義務教育の9年間を見通した小中一貫教育を大切にしながら、多彩な取り組みを推進している。

平成20年度から小中一貫教育をスタートさせ、平成23年度に全ての中学校区で研究委託を行ない、平成26年度から小中一貫教育を本格的に実施されている。

池田市では、施設一体型の「ほそごう学園」、施設分離型の「いけだ学園」「しぶたに学園」「石橋学園」「きたてしま学園」の5つの学園で、小中一貫教育を実施し、学校・家庭・地域が結びつき、子どもとのつながりを深める取り組みを行なっている。各学園では、連合協議会や連合音楽会を毎年開催し、交流を行なっている。

各学園内での連携・交流に関しては、小中一貫教育推進委員が中心となって児童・生徒の交流や教職員の交流、定期的な合同会議や研修など、多岐にわたって小中一緒に取り組みを進めているとのことである。

学校と地域の連携は、各学園においておおむね良好で、職場体験での地域の受け入れや地域を巻き込んでのイベントの開催、総合学習の授業時の地域の方々の参加等、地域との連携は欠かせないものとなり、教育コミュニティづくりの取り組みが推進されている。

2 視察の成果及び、市政への反映等

池田市では、「豊かな心」「確かな学力の育成」「健やかな身体」を育むために、グローバル化社会への対応として「英語教育の充実」、安心して学べる場の保証として「学習環境の充実」、情報化社会への対応として「ICT教育支援」、保護者のニーズに対応として「家庭学習支援・子育て支援」、義務教育スタートをサポートとして「幼児教育の充実」、優れた指導者によるサポートとして「豊富な外部人材の活用」など多彩な取り組みをされている。

元プロ野球選手が池田市のスポーツ顧問として、野球教室や野球部指導をされたり、アテネ五輪の銅メダリストが、小中学校の児童・生徒に水泳指導をされ、子どもたちが、目を輝かせて練習に取り組んでいるとのことだった。学校の先生だけでなく、その道の専門家やプロの方を派遣することでさらに子どもたちの力が伸びていくと思った。

本市でも池田市の多彩な取り組みを是非紹介したいと思う。

## 「公明」・「都伸クラブ」 合同行政視察報告書

公明 音堅良一

高知県高知市「全国市議会議長会研究フォーラム」に出席して

### 1、 視察の感想

高知ちばさんセンターで開催。基調講演、パネルディスカッション、課題討議の3部構成で、内容のある貴重な講演となりました。基調講演は、中島岳志教授による「現代政治のマトリクス・リベラル保守という可能性」について講演されました。政治のマトリクスとして、歴代内閣の首相は、リスクの社会化かリスクの個人化なのか、またリベラルかパターナルなのかの説明がありました。また、自民党の50年の歴史、総裁選挙や希望の党が失敗した理由、立憲民主党フィーバー、支持率急落等についての詳しい解説がありました。パネルディスカッションでは、有識者から見た議会について、女性ゼロ議会、議員なり手不足の課題について、市議会の現状認識、自治体議会をめぐる状況変化、中長期的な制度、早急に検討すべき事項について、議会活性化、ガチンコ会議、若手・女性の参加について、発表がありました。課題討議では、3市議会議員が、市議を目指しやすい環境整備について、女性議員の現状の視点、ジェンダーに配慮した議会について、議会改革の歩み、行政監視機能の充実、委員会懇談会について、それぞれの地元の課題等について発表がありました。

### 2、 視察の成果及び市政への反映等

山口県周南市の行政監視機能の充実として、「公の施設」の指定管理者制度に関する調査を行い、各委員会で委員会決議を行い、議員提出議案として上程し、可決になった事例があり、本市が今後取り組む方向性を、具体的に学ぶことができました。また、積極的な委員会懇談会（ミニコン）により、市民が自治意識の高揚を図り、市民が議会に参画する機会を確保する。よって、市民の声を議会活動に生かす取り組みになっていることも、重要だと思いました。神奈川県鎌倉市の女性議員の現状については、出産が欠席事由として規定されないことや看護休暇の整備、配偶者出産休暇の取得等、の課題提起があり、本市に於いても同様の課題だと思いました。新潟県上越市では、市議を目指しやすい環境整備検討会が行われ、こころの問題の要因や物理的問題の要因を分析され、改革案を策定して、市議を目指す人を増やす、先進的で素晴らしい取り組みをされています。以上の三政策については、本市に於いても、反映させていきたいと思います。

## 「公明」・「都伸クラブ」 合同行政視察報告書

公明 音堅良一

### 大阪府池田市「小中一貫教育」について

市議会副議長 荒木眞澄 様  
教育委員会指導主事 前川亮太 様

#### 1、 視察の感想

池田市は、平成 28 年度から「教育日本一」という目標を掲げて、多様な新しい教育事業に取り組んでいます。小中一貫教育への経緯は、平成 20 年度から小中一貫教育の研究がスタートし、中学校の英語の先生が小学生に英語を教えることで、入学前の小学生を知ることや、小学校の先生と教育の話をすることが大変意義深かったこと等の事例からであります。平成 23 年度に全ての中学校区で、小中一貫教育の研究委託を行い、平成 26 年度から小中一貫教育を本格実施されました。5つの小中一貫校の学園の内の4学園は、小学校、中学校、幼稚園やこども園と一緒に併設されています。教育最前線のほそごう学園は、小中、同じ施設内で9年間の義務教育を一貫して行っており、新たな義務教育学校として、子どもの成長期に応じて4年間・3年間・2年間の3段階の適切な教育となっています。また、保護者や地域住民が参加する学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールの実施や、校区にとられない「特認校制度」の採用によって、校区の壁を越えての通学が可能となっています。

#### 視察の成果及び市政への反映等

教育最前線の学校を目指した9年間の義務教育学校は、児童・生徒や教職員が校種を超えて、日常的な交流が可能で、学習指導や生徒指導上の情報交換も日常的に行っています。そして、中学生が低学年に対して優しく接することで自立心が伸び、それにより、低学年は高学年への憧れや目標が生まれ、より成長が促される良い効果も出て、小中一貫教育を基本に、多彩で素晴らしい取り組みを推進しています。更に、平成 24 年から、大阪府教育委員会より教職員の人事権が3市2町に移譲され、地元を愛する優秀な人材を確保することや、不登校・ひきこもり・発達障害の子どもたちが自立できるように、在籍校と連携した公設民営のスマイルファクトリー（NPO法人）も運営しています。本市に於いても、小中一貫教育の導入については喫緊の課題であります。池田市の教育最前線の取り組みを参考に、これからも調査・研究して参りたいと思います。